

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Includes details for 株式会社 育成 and グループホーム育成会 ぬくもり(Aユニット).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=rue&JigyosyoCd=0194200168-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details include 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ and 札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様と一緒に過ごす時間を大事にしており、季節の行事や作品づくりを一緒に行いながら、入居者様の状況を把握して、笑顔溢れる取り組みをしています。入居者様の筋力維持を目的とし、一日2回、食事前に毎日体操を行っております。職員に関しては、内部研修を行ったり、オンデマンド研修を取り入れ、知識・技術・意欲の向上を図りながら、職員同士が同じケアが出来るような環境づくりを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は西春別中心部のゆるやかな丘陵で酪農地帯の閑静な住宅地にあり、開設して6年程の施設である。木造平屋L型の建物で、L型の角には広い台所と各ユニット用の食堂と居間、それらを共用した多目的ホールがある斬新的で機能的な特徴を有しており、構造的に珍しい事業所である。台所のスペースには移動可能な大きな調理台が2台あり、両ユニットの利用者が一緒に職員と餅作りをしたりクッキーを作る等、調理を楽しみながら食事を提供する場になっている。多目的ホールには通信カラオケが設置されており、利用者は来訪する地域住民と一緒にカラオケを楽しんでいたが、コロナ禍で自粛している。また、職員が幼児を事業所に連れてきており、そのため全体的な雰囲気や和む良い環境になって利用者の癒しを得る存在となっている。地域住民との交流も深く、町の祭りや盆踊り等に参加したり、保育園や小学校、地域との交流に努めていたが、この件もコロナ禍で自粛している。別海町周辺は冬になるとスタッフが帰宅できない荒天となる為、2段ベッドがある宿直室が備えられており、通常のグループホームの中でも特徴のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はリビングや玄関に提示しております。ミーティングの際に唱和を行い、周知・把握・実践に活用しております。実践しながら理念を出来ているかの確認をしております。毎月、目標を立てて行っております。	事業所理念を玄関やリビングに掲示している。理念について会議で話し合うほか、利用者の支援時に、理念を意識した取組を心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しております。地域との交流を大切に幼稚園や保育園のお遊戯会や運動会の見学会、日赤奉仕団の方からご招待を受け行事に参加しております。	町内会に加入している。町内会の行事や地域住民が来訪する等の交流はコロナ禍により自粛している。所いいうが一向や中学校の職場体験受け入れはコロナ終息時には検討していく。	コロナ禍により地域との交流は自粛されているが、終息後に新たに交流していく上で、認知症に関する事や福祉全般、身体拘束などについて講習会や講演等を開催する事によって地域の福祉に貢献する事を期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で定期的に認知症の理解や支援に繋げる為に意見交換を行っております。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での行事や取り組み、職員の資質の向上(研修・事故報告など)課題などを議題に報告・相談し、意見を参考にサービスにいかすように心掛けております。	運営推進会議には役場職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、前連合町内会会長等が参加し、2か月に1回開催していたが、現在はコロナ禍により書面開催となっている。施設の入所状況・感染症対策・利用者の様子等をまとめた議事録を既存委員に送付し、意見や助言を得て運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者は、情報や連絡事項を通知していただきます。運営推進会議の概要報告で状況を把握して頂き、必要時には確認等の連絡を行える関係づくりを心掛けております。	運営推進会議の場で、役場職員や地域包括支援センター職員に、ホームの実情を理解してもらっている。コロナウイルス予防接種時には相談、電話やメールのやりとりをして利用者の感染予防に繋げている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人感センサー利用は、数名いますが、職員同士が日常ケアを行いながら、入居者様の状況を把握し、情報を共有しながら、身体拘束・行動制限を行わない様に取り組んでおります。やむを得ない拘束が必要な時は、ご家族様へ説明・同意・理解を頂き、書面を交わしております。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月毎に開催している。職員は外部研修及び伝達研修を通し身体拘束に該当する具体的な行為とその弊害について学び、理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を行い理解を深めながら、高齢者虐待防止について現状に無いか確認します。また、職員のメンタルヘルスケアにも留意していきます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方はおりませんが、内部研修などで、権利擁護について研修を行い、理解し必要な援助に活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約自の説明は十分にしており、理解を頂いて締結しております。また、改正・変更がある場合にも書面等や直接説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱、アンケート用紙を置いています。また、ご家族様が来訪時や電話などで入居者様の近況を報告し、ご家族様の要望などを頂きながら、サービス向上に努めております。	利用者の様子は家族に毎月収支報告書送付時に手紙や「めくもり通信」などを添えて利用者の近況などを報告し、意見や要望を聞くように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理長との面談もありますが、定期的に幹部会議を開催しており、その場にて職員の意見や提案を取り上げる機会を設け反映しております。	管理者は日常的に職員の意見や要望を聞く機会を設け、個別面接の際にも職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。また、職員は目標設定を行い日々のケアに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を職員の実績に応じて行ない、キャリアパスを設け、向上心を持って働けるよう環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、外部研修に行くことは出来ませんが、オンデマンドを使いスキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会やその他の団体が開催しているオンデマンド研修を活用しスキルアップに努めております。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所様が関わる支援事業所や医療機関より、情報を提供して頂き、ご本人の不安な事、求めている事を安心して相談できる関係作りや雰囲気作りに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所者様が関わる支援事業所や医療機関より、情報を提供して頂き、ご本人の不安な事、求めている事を安心して相談できる関係作りや雰囲気作りを努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や面談の際に必要なとされる支援の見極めを行い、求められている支援について全職員で話し合い、初期の介護支援計画を立てる様、努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者様の能力を把握し、一緒に行うことによって、入居者様から教えて頂け、互いに支え合う関係を目指しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、コロナ禍で、まん延防止が出ている時は、面会は行っておりません。入居料の支払いに窓口に来設された時に入居者様の様子や要望をお伝えしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナ禍で家族・知人の面会は行っておりません。外出も現在は行っておりません。	コロナ禍で馴染みの人や場との交流は自粛している。職員は利用者との日常会話の中で、知人や昔の仕事の話題などを取り入れて、関係性の継続が図れるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士と一緒に過ごす時間を持ち、談話をしたり、優しい言葉を掛け合ったりして生活を共にしております。時にはトラブルになる事もありますが、職員が介入し話題を変えるなど調整を図っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要とされる対応を行い、これまでの関係性を大切に、近況報告しやすい雰囲気作りを心掛けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを職員間で共有・把握し支援に努めております。困難な場合は、本人の行動や言動を感じ取り、検討しております。	職員は、利用者の生活歴や日々のケアの中で関わりから、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。また、意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様から情報を聞きながら、センター方式を活用し、生活歴やサービス利用の経過の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の能力を把握し、体調変化や表情・しぐさ等の観察を行い、その人らしい生活が送れるよう努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が担当者となり、本人の生活への要望や家族の意向を伺いながら、また、聞き取りが困難な入居者様の思いも理解出来る様にセンター方式を活用し、介護計画を作成しております。	短期6ヶ月、長期1年で介護計画を見直ししている。日々の関わりやケア記録を基に、職員で話し合い、家族等の意見を反映した介護計画を作成し、家族の同意を得ている。心身の状態変化時は、変化に応じた見直しと現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調変化や言動・行動などを把握しながら、ご家族と情報交換を行い、介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化や言動・行動などを把握しながら、ご家族様と情報交換を行い、外出や病院受診の対応を職員ご家族様が行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時や徘徊の対応など、理解を頂きながら、協力をお願いしていきたいと思っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や緊急時の受診について、ご家族様との連携を図りながら、情報提供票を作成して適切な医療を受けられるように支援しております。	かかりつけ医での診察を大切に原則家族が受診に同行している。受診後は報告を記録に残し、家族及び事業所で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員へ入居者様の状況や治療経過の報告を行い相談や助言を頂いております。また、受診の際に主治医への報告に関して相談・助言を頂き、適切な医療が受けられるように、健康管理支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、介護添書を作成し医療機関へお渡ししております。ご家族様との連携も常に行っております。現在は、コロナ禍の為、定期的な訪問は出来ておりません。退院の際、医療との情報交換を行い、速やかな受け入れ態勢を整えます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて事前にご本人様・ご家族様への看取りについて話し合いを行い、ホームでの対応についても説明し、書面にて同意を頂いております。状態の変化に応じて、家族様・医療関係者・職員等との情報を共有と方針の確認を行います。	入居時に「終末期介護に関する指針」を利用者と家族に説明し同意を得ている。体調の急変等で医療的判断を仰ぐ場合は、主治医に相談助言を求めながら、方針について段階毎に家族等に看取りの意思確認を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が早期に対応出来る様に、急変時の緊急マニュアルを作成し、研修や職員会議等で確認しております。AEDを設置し使用方法も講習しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を定期的に行っております。少人数での消化・通報・避難誘導を行うため、町内会・消防団・近隣の方にも、協力体制をお願いしております。	昼夜想定避難訓練は年2回行い、消防署の協力を得ている。地域住民や消防団等の協力体制がとれている。長期停電時があった場合は、近隣の自衛隊より発電機の支援がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけない様に接する事に努めております。個人情報については、事務所書庫にて保管・管理しております。	利用者に対して制止するような言葉かけを行わないよう気をつけているほか、呼び方にも配慮している。個人情報に関する同意書があり、個別ファイルは事務室の棚に、適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様・職員と一緒に過ごす事で、相談できる関係作りを行い、入居者様が何を思い、何を求めているのか会話の中から察する事を心掛けております。個々に合わせ、対応・説明しながら自己決定が出来る様に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかな雰囲気大切に、ご本人様の思いや願いを優先して「楽しい」「出来た」「また、やりたい」と喜びや楽しさを共感し合える支援を心掛けております。		

グループホーム育成会 めくもり(Aユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の自尊心を傷つけないように、整容や身だしなみを行い、さりげない心掛けをしております。また、定期的に訪問理容室に依頼しております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理・片付けを行っております。現在はコロナ禍の為、食事は、一緒に楽しむ事は、行っていません。	利用者の希望を聞き、職員がメニューを作成している。近くの農協で購入し、職員と利用者が一緒になって食事の準備から盛り付け、後片付けを行っている。季節の行事食や誕生日など、利用者の好み、要望を反映した献立となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や低血糖等を起こさない様に、水分・食事摂取量を記録し、栄養バランスが保てるように心がけております。必要に応じて介助を行っております。必要な水分量が摂取出来る様に、小分けに回数を増やす等支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを実施しており、ご自身で出来る方はご自身で、介助の必要な方は義歯、口腔洗浄等を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ等が必要な入居者様も、夜間帯以外は毎食後誘導し、自力排泄を促しております。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握しながら、排便コントロールを行っております。毎日ヨーグルトを作って、提供しております。毎日2回体操を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の意向や体調を確認しながら、気持ち良く入浴をして頂けるように支援しております。拒否される方に対し、言葉を選びながら、時には職員が交代しながら促しております。状況に応じて足浴も行っております。	週2回午前中と午後入浴の支援をしている。必要によりシャワー浴や足浴、部分清拭での対応をしている。入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣や日々の状況に合わせて、安心して睡眠が出来る様に、個々に合わせて配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の持病と服薬内容や副作用等を把握し、症状の変化があれば看護職員や主治医・ご家族様への報告・相談しております。		

グループホーム育成会 めくもり(Aユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の出来る能力を、日常生活の中や生活歴の中から把握し、能力を発揮できる場作りを心掛けております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、行っておりません。	コロナ禍で外出支援は自粛しているが、終息後は以前と同様に戸外でのバーベキューやドライブしながらアイスクリームを食べたり、花見や紅葉などの外出支援を実施する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される時は支援しております。お手紙はご本人様に渡しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下・食堂・玄関には、季節の飾り物を置いたり、入居者様と一緒に作成し季節を感じて頂ける様に工夫しております。	多目的ホールでもあるリビングと食堂、広い調理室は2ユニット共有の空間でもある。ユニット合同でのイベントを開催したりして、利用者が日常の楽しみを提供し居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、食事を終えたとソファに座り入居者様同士で会話を楽しまれたりして過ごされております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使っていた馴染みの家具をお持ち頂くようお願いしております。ご家族様の写真や、ご本人様の好きな歌手のポスターを飾るなど居心地の良い環境づくりを心掛けております。	利用者がこのグループホームで不安なく安心して暮らせるように、今までの自分の生活が続けられるように馴染みの家具や居室の雰囲気作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の能力を把握するセンター方式を活用し安全・安心して自立した生活が送れるように工夫しております。		